

## 再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：深澤 淳志

<b>事業名</b>	地域高規格道路 <small>みやこもりおか</small> 宮古盛岡横断道路 一般国道106号 <small>とんかつめ</small> 都南川目道路	<b>事業区分</b>	一般国道	<b>事業主体</b>	国土交通省 東北地方整備局
<b>起終点</b>	自： <small>いわてけんもりおかしかわめだいちちわり</small> 岩手県盛岡市川目第五地割 至： <small>いわてけんもりおかしちるもり</small> 岩手県盛岡市手代森			<b>延長</b>	6.0km
<b>事業概要</b>	宮古盛岡横断道路は、岩手県の重要港湾都市である宮古市を起点とし、県都盛岡市へ至る地域高規格道路（延長約100km）である。 都南川目道路（自動車専用道路）は宮古盛岡横断道路の一部を形成し、広域高速ネットワークの強化、安全安心な交通の確保等を目的とした延長6.0kmの2車線道路整備事業である。 なお、当該道路は、平成20年度に実施したB/Cの点検結果を踏まえて、平成21年度事業の執行を見合わせ、再評価を行ったものである。				
	H9年度事業化	H13年度都市計画決定	H17年度用地着手	H18年度工事着手	
<b>全体事業費</b>	257億円	<b>事業進捗率</b>	12%	<b>供用済延長</b>	0km
<b>計画交通量</b>	8,000台/日				
<b>費用対効果分析結果</b> (3便益)	<b>B/C</b> (3便益) (事業全体) 1.1 (残事業) 1.3 * 全体B/C=1.1、 残事業B/C=1.4	<b>総費用</b> (残事業)/(事業全体) 169/206億円 (事業費：160/197億円) 維持管理費：9.1/9.1億円	<b>総便益</b> (残事業)/(事業全体) 218/218億円 (走行時間短縮便益：202/202億円) (走行経費減少便益：12/12億円) (交通事故減少便益：4.4/4.4億円)	<b>基準年</b>	平成21年
<b>感度分析の結果</b>	残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=1.4(交通量 +10%) B/C=1.2(交通量 -10%) 事業費変動：B/C=1.2(事業費 +10%) B/C=1.4(事業費 -10%) 事業期間変動：B/C=1.1(事業期間 +20%) B/C=1.5(事業期間 -20%)				
<b>事業の効果等</b>	①産業支援 ・穀付きカキ(岩手県は日本を代表する産地)の市場への輸送効率向上 ・コネクタ製品(出荷額は日本第3位)の輸送効率向上 ②観光支援 ・岩手県を代表する主要な観光地(小岩井農場や浄土ヶ浜など)へのアクセス向上 ・観光交流促進を支援 ③医療支援「命の道」 ・3次救急医療施設へのアクセス向上(川井村及び盛岡市築川地区→3次救急医療施設 15分短縮)【約3.6億円※】 ④災害時等における交通の確保 ・当該道路の整備により、災害時等の迂回ルートが確保される【約0.3億円※】 ⑤冬期交通への支援 ・冬期の推雪、路面凍結による速度低下の軽減【約13.7億円※】 ※は、供用後50年間の便益額として試算した値(参考値)				
<b>関係する地方公共団体等の意見</b>	地域から頂いた主な意見等： ・H21年3月31日の費用便益比(B/C)の点検結果(1.0以下)を受けて、即座に盛岡市長、宮古市長、川井村長の連名で、「都南川目道路」の整備促進に関する緊急要望(平成21年4月3日)を受けている。 ・国道106号地域高規格道路整備促進期成同盟会(会長：宮古市長)にて、都南川目道路の事業継続を求める緊急決議案を決議。救急医療施設への搬送や緊急災害時の支援など宮古市と盛岡市をつなぐ一時も寸断することのできない重要道路である。(平成21年5月19日) ・都南川目道路は、救急患者を宮古市や川井村から盛岡市に搬送する際に使われる命の道路だ。1分1秒を争う救急医療活動において、この道路は重要である。(盛岡市長 平成21年6月3日意見聴取会より抜粋) ・本村には日本で唯一の森林博物館があり、それを活用し山村にしか出来ないメニューで交流人口の増加を目指している。山村を維持するための経済的な位置づけとして、地場産業の育成と交流人口増加のために必要な道路である。(川井村長 平成21年6月3日意見聴取会より抜粋) ・年間100回以上県立宮古病院から盛岡の病院へ救急搬送しており、3日に1回、多い日は1日2回、医師が同				

